

大西洋クロマグロ 東大西洋

Atlantic Bluefin Tuna, *Thunnus thynnus*



管理・関係機関

大西洋まぐろ類保存国際委員会 (ICCAT)

最近一年間の動き

2012 年の ICCAT への報告漁獲量は約 11,500 トン、そのうち地中海は約 7,600 トンであった。科学委員会 (SCRS) は 2013 年に 3 つの会議を開催し、2015 年に予定している新たな資源評価手法を用いた資源評価へ向けて、生物学的データ及び資源評価手法に関して検討し、今後の詳細な作業計画を作成した。ICCAT での最新の資源評価は 2012 年 9 月に行われたものである。2013 年の SCRS は各資源量指数の更新を行い、2012 年の資源評価と判断が変わらないことを確認した。さらに、最近年の全ての資源量指数が上昇傾向であることを明記し、2022 年までに 60% 以上の確率で MSY を達成するとの管理目標に対し、現行の資源評価では、定量的に評価しきれていない不確実性が含まれている懸念があり、将来の資源回復確率を定量的に示すことは困難としながらも、近年程度の総漁獲可能量 (TAC (2012 年 TAC は 13,400 トン)) であれば回復目標を達成可能と勧告した。SCRS の管理勧告を踏まえ、委員会は 2014 年の TAC を 2013 年と同様の 13,400 トン (日本は 1,139.55 トン) とした。なお次回の資源評価は、従来の資源評価手法を用いて 2014 年に更新される予定である。

生物学的特性

- 寿命: 25 ~ 30 歳
- 成熟開始年齢: 4 ~ 5 歳
- 産卵期・産卵場: 6 ~ 8 月、マジョルカ島からシチリア島にかけての地中海
- 索餌場: 地中海、ビスケー湾等、北緯 35 度以北の大西洋
- 食性: 魚類、甲殻類、頭足類
- 捕食者: まぐろ・かじき類、さめ類、海産哺乳類

利用・用途

すし、刺身

漁業の特徴

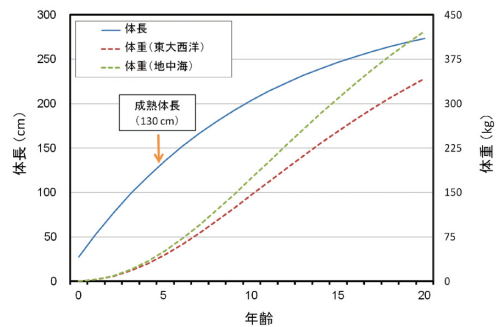
主な漁業国はスペイン、フランス、日本、イタリア、モロッコ、トルコである。日本ははえ縄、スペインは定置網と釣り、フランスはまき網、イタリアは定置網とまき網で漁獲を行っている。東大西洋と地中海では小型魚が漁獲されており、特に地中海で漁獲量が多いが、過去の統計値の正確性には疑問がある。

漁業資源の動向

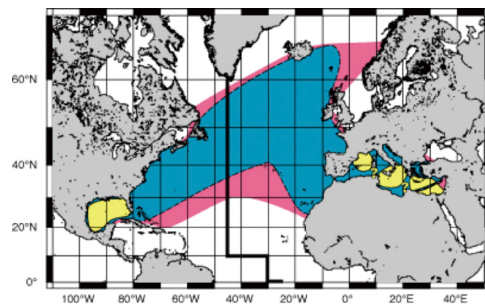
2012 年の ICCAT への公式に報告された漁獲量は約 11,500 トン、そのうち地中海は約 7,600 トンであった。

資源状態

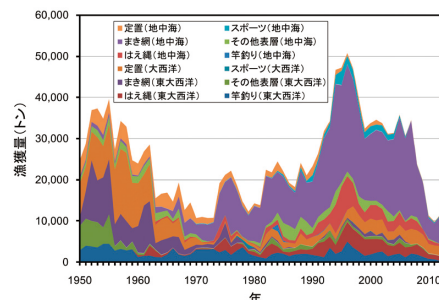
親魚資源量は 1970 年代より 2000 年半ばまで減少し続けた後、近年は増加傾向に転じたと推定された。ただし、資源評価モデルの設定を変えて実施した感度解析の結果、推定された親魚資源量の増加速度や量には高い不確実性があると考えられている。公式報告漁獲量が正しかった場合、近年 (2009 ~ 2011 年) の親魚資源量は過去最大時 (1957 ~ 1959 年) の約 95% (実際の漁獲量が公式報告漁獲量よりも多い場合は 120%) であった。前回 (2010 年) に行われた資源評価結果よりも楽観的であり、資源水準は中位で、増加傾向と評価された。2013 年の SCRS は資源評価を行わず、各資源量指数の更新を行い、2012 年の資源評価と判断が変わらないことを確認した。



大西洋クロマグロ (東系群) の年齢あたりの体長と体重



大西洋クロマグロの分布域 (赤) と主要漁場 (青)、産卵場 (黄) 縦太線は東西の系群の境界。索餌場は産卵場を除く分布域。



大西洋クロマグロ (東系群) の漁法別海域別公式漁獲量の推移 (1950 ~ 2012 年)

管理方策

SCRS は、近年の規制により明らかに漁獲量及び漁獲死亡が減少したこと、最近年の全ての資源量指数が上昇傾向であることを明記した。管理目標については、現行の資源評価では、定量的に評価しきれない不確実性が含まれている懸念があり、将来の資源回復確率を定量的に示すことは困難としながらも、近年程度の漁獲量であれば回復目標を達成可能と勧告した。SCRS の管理勧告を踏まえ、SCRS は 2014 年の TAC を 2013 年と同様の 13,400 トンとした。委員会は、全ての生簀において活け込み時の尾数及び重量の推定のため、ステレオビデオカメラ、または同等の情報が得られる方法を 2013 年より導入している。その他の規制は、まき網、蓄養へのオペレーター制度の導入を含む管理強化、地中海のまき網漁業の禁漁期の設定と魚群探査用の航空機利用の禁止、小型魚を保護するため 30 kg 以下の小型魚の漁獲・陸揚げ・販売の禁止、漁獲証明制度がある。

資源管理方策まとめ

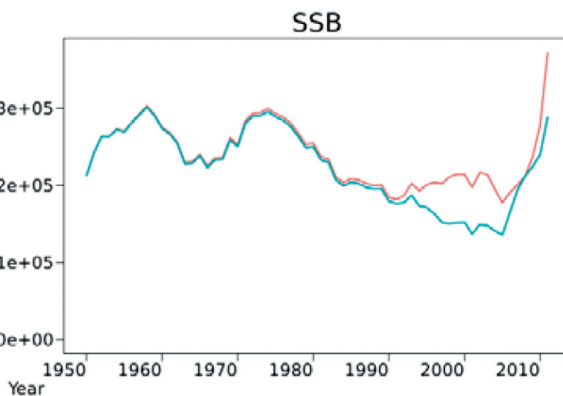
- 2014 年の TAC は 13,400 トン
- SCRS が資源崩壊の危機（資源の回復が困難な状況）を認めた場合、漁業を停止
- 地中海のまき網漁業の禁漁期設定、東大西洋の一部と地中海のはえ縄の禁漁期設定
- 蓄養の管理強化
- 30 kg 以下の小型魚の漁獲・陸揚げ・販売を禁止

資源評価まとめ

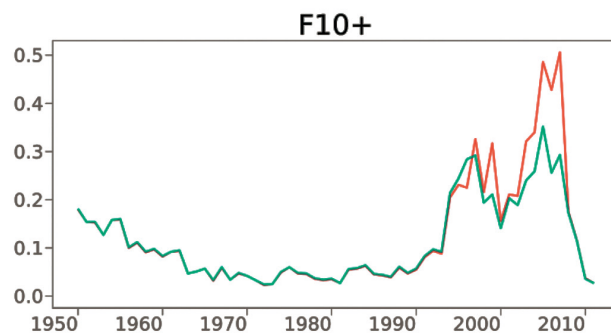
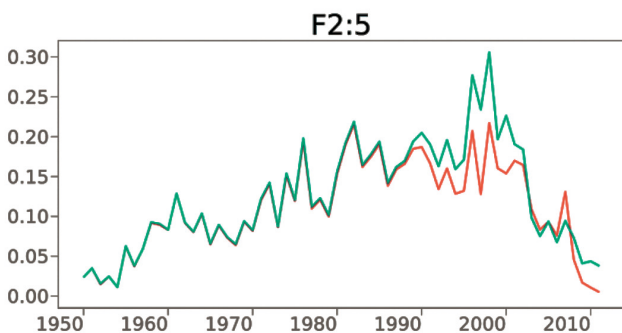
- 最新の資源評価は 2012 年に ICCAT の SCRS で実施
- VPA-2BOX により資源評価
- 資源量推定のパラメータ及び結果の不確実性は非常に大きい
- 資源水準は中位・増加傾向
- 次回の資源評価は、従来の資源評価手法を用いて 2014 年に更新する予定

大西洋クロマグロ（東大西洋）の資源の現況（要約表）

資源水準	中 位
資源動向	増 加
世界の漁獲量 (最近 5 年間)	1.0 ～ 2.4 万トン 平均：1.5 万トン (2008 ～ 2012 年公式報告漁獲量)
我が国の漁獲量 (最近 5 年間)	1,100 ～ 2,400 トン 平均：1,500 トン(2008 ～ 2012 年)



2012 年の資源評価で推定された加入量（左図、単位：尾数）、親魚資源量（右図、単位：トン）
 青は公式に報告された漁獲量を用いた場合、赤は 1998 ～ 2007 年の実際の漁獲が公式に報告された漁獲よりも多かった場合。



2012 年の資源評価で推定された 2 ～ 5 歳（左図）及び 10 歳以上（右図）の漁獲死亡率
 青は公式に報告された漁獲量を用いた場合、赤は 1998 ～ 2007 年の実際の漁獲が公式に報告された漁獲よりも多かった場合。